

福岡観世会定期能

平成二十七年(第二回)



能 二人静
ふたり しずか
坂口 信男

狂言 文山賊
ふみやまだち
野村 万禄

能 小鍛冶
こ かの じ
黒頭 多久島利之



とき 5月16日(土) 午後1時始
ところ 大濠公園能楽堂
入場券 自由席 7,000円
発売所 大濠公園能楽堂事務所
092-715-2155



附祝言

二人静

坂口 貴信
坂口 信男

難波 菊本 美貴
笹之段 今村 宮子
天鼓 多久島法子

地謡
松田美栄子
長宗 敦子
菊本 澄代
木月 晶子

間

福王茂十郎

白坂 保行
幸 正佳

相原 一彦

野村 万禄

後見 山口剛一郎
大西 智久

地謡

井内 政徳 森本 哲郎
今村嘉太郎 上田 貴弘
久保誠一郎 観世 清和
今村 一夫 今村 嘉伸

△休憩十分▽

文山賊

狂言

野村 万禄

吉住 講

仕舞

屋島 今村 嘉伸
高野物狂 大槻 文蔵
西行桜 大西 智久
笠之段 観世 清和
鞍馬天狗 久保誠一郎

地謡
井内 政徳
浅見 重好
上田 貴弘
今村 一夫

△休憩十分▽

小鍛冶

多久島利之

福王茂十郎

白坂 保行
飯富 章宏

吉谷 潔
森田 徳和

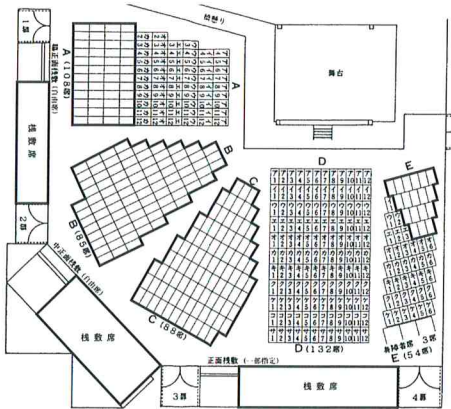
間

吉良 博靖

後見 坂口 貴信
大槻 文蔵

地謡

山口 敏弘 森本 哲郎
武富 昭 浅見 重好
山口剛一郎 今村 嘉伸
今村 一夫 鷹尾 維教



※番号が書かれていない席は自由席です ※棧敷席は自由席です

第二回予告

平成27年12月5日(土)午後1時始

能 葛城 観世 清和
狂言 佐渡狐 野村 万禄
能 玄象 森本 哲郎

◆ふたりしずか

春また浅き吉野の里。神主(ワキ)は従者を呼び出し、神前に供える若菜を、里の女に摘ませるよう命じます。召使の女(ツレ)が菜摘に出ると、そこへ声をかけた女(前シテ)がおりました。写経をしてわが身を弔って欲しい、もし神官が信じてくれないなら、その時には自ら名を明かそうと不思議なことを言い残して消え失せました。

神社にてその出来事を神主に語る内に、召使の女は忽ちただならぬ様子になり語調も一変します。女に静御前の霊が憑いたのです。蔵にあった静ゆかりの装束を着け、弔いを受けるため舞い始めた女に、影のように静御前の霊が重なります。

ツレにシテが乗り移っておりますから、目に見える姿はひとつのはずですが、お客様には、二人の静御前の姿がみえます。

古の人達は、舞台の悲しくも美しい静御前の姿の向こう側に、義経の面影をも寄り添わせて見ておられたかも知れません。

◆ふみやまだち

二人の山賊が口論の末、果し合いで決着をつけることにするが、見物人もいないのに闘って死ぬのは犬死にも同様と、妻子に書置きを残すことにする。それを読んだらばさぞかし悲しむだろうと思つた山賊たちは……

◆こかじ

帝の霊夢により、勅使(ワキツレ)は名工宗近(ワキ)に御剣を打つよう命じます。

宗近が奇特を頼みに相槌を得るため、稲荷明神に参詣すると、童子(前シテ)が現れます。童子は、君の恩恵にて必ず成就すると伝え、剣にゆかりの故事も詳しく語って聞かせ、稲荷山へ消えてゆきます。

宗近の部下(アヒ)が御剣を打つ際の神力の有難さについて語り、そして去ると、舞台には注連縄を張った一畳台が出されます。そこが、神力の加護を祈り、御剣を打つための壇となります。「謹上再拝」と祝詞をあげていると、稲荷明神(後シテ)が登場し、相槌を勤め、見事に御剣を打ち上げます。表に小鍛冶宗近、裏に小狐と銘を入れて勅使に捧げた後、稲荷山へ飛び去ります。

黒頭の小書が付くと、シテが霊狐と神秘的な位となります。前は喝喰姿で稲穂を持ち、後は普通の赤頭から黒頭となり一段と強さを表現します。

解りやすい筋書で見どころ聞きどころも多い人気曲です。

(記・菊本澄代)